

編集 後記

新型コロナウイルスワクチンの大規模接種が5月に東京で始まり、その後全国に展開されています。ワクチン接種の効果が国内全域で確認でき、一日も早く穏やかな日々が戻ることを願います。

本号では4編の原著、1編の資料と、会員の声2報を掲載しています。4編の原著のうち3編は高齢者保健に関わる内容で、1編は「住民主体の通いの場の継続的支援に向けた自治体や専門職の住民への働きかけに関する考察」を、1編は「介護職の就労継続の意向を高める要因」をポジティブな側面から論じ、1編は「食の多様性チェック表の地域での普及と、その前後の高齢者の食行動変化および関連要因」を検討しています。他原著1編では、3歳児健康診査に来訪した保護者を対象に「家庭の経済状況と子供の食生活習慣との関連」を検討し、資料1編では「町内会における防災活動とリーダーの年齢や役割認識、遂行指導などとの関連」を提示しています。いずれの論文も、示唆に富む内容で読み応えがあります。

これら本号の各論文では、全て2020年1月以前に各研究チームで実施した調査データを解析に用いているため、コロナウイルスが国内で本格的に猛威を振るう前の調査による研究成果と言えます。長引くコロナ禍で、この間、通いの場の活動が制限されていることや、介護職の負担が重くなっていること、高齢者の買い物の頻度の低下や、相対的貧困家庭での経済状況が悪化している可能性、地域での防災活動が縮小している可能性も考えられ、この渦中にそれぞれの課題（あるいは状況）が悪化していることが懸念されます。一方で、このコロナ禍で各自が課題解決に向けて知恵を絞り、工夫を凝らし、今までとは違う視点から新たな活動が開始されている可能性も期待されます。

コロナの収束時期はまだ見通せませんが、このような苦しい状況下でも、アイデアを駆使し、様々な公衆衛生活動が途絶えることなく展開されることを願います。地域での新しい取り組みや、公衆衛生活動から得られた知見に関する投稿もお待ちしています。（大塚 礼）

次号予告（第68巻・第8号）

原 著

大阪府摂津市および阪南市における働く世代からのフレイル該当割合ならびにその関連要因
……………吉田 司，他
地域保健活動における主要用語の定義：デルファイ法を用いた全国調査……………永井智子，他

資 料

日本における無症候性陽性者および前発症期の陽性者との接触による新型コロナウイルス感染事例の分析……………田中英夫，他
「改正・健康増進法」ならびに「兵庫県受動喫煙の防止等に関する条例」施行による病院の無煙化達成状況……………濱田昌範，他
シルバー人材センター会員における屋外作業時の疲労対処行動：運動機能と認知機能の類型による比較……………森下久美，他